

マーケットの動き（2023年2月13日～2月17日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。

1月の米国CPI（消費者物価指数）や米國小売売上高、米国PPI（卸売物価指数）がそれぞれ市場予想を上回る伸び率であったことから、金利先高観が強まり米国国債は週を通して売られました。週末には、売りが一巡したことで金利上昇に一服感がみられました。

ドイツ国債市場は、おおむね米国に連動した推移となりました。

投資環境見通し（2023年2月）

長期金利は、米国、欧州（ドイツ）ともレンジ内で推移

米国：長期金利は、インフレ圧力の緩和に加え、实体经济に対するこれまでの大幅利上げの影響は低下要因とみえています。ただし、利上げ停止をはじめとした金融政策の修正観測については相当程度織り込まれているとみられ、レンジ内で推移するとみえています。

欧州：ECB（欧州中央銀行）による金融引き締め姿勢継続や量的引き締め開始が警戒されますが、今後の利上げについては相当程度の織り込みが進んでいるとみられることから、ドイツ長期金利はレンジ内で推移するとみえています。

	2月17日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	3.83	0.10	0.30	0.94	1.86
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース(騰落率)	501.92	1.59%	2.20%	▲4.30%	0.26%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

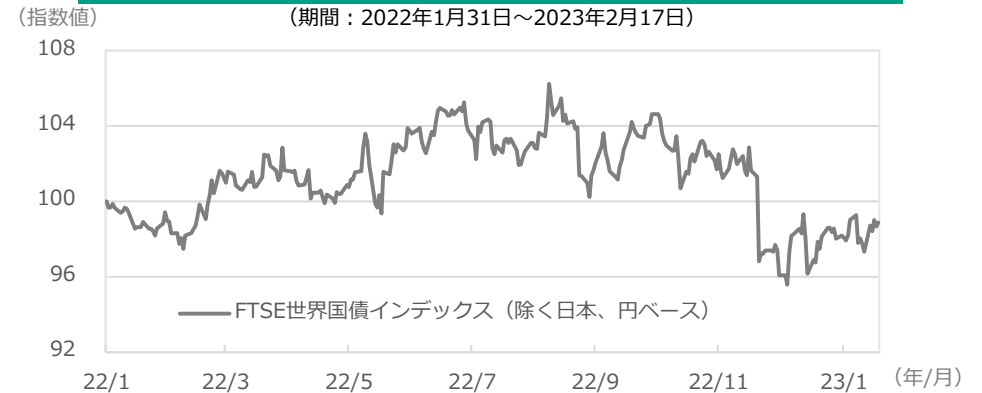
https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202302_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移



FTSE世界国債インデックスの推移



※2022年1月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成